

アスファルトは 本当に熱いのか

最近地球温暖化で「暑いな」とよく感じます。けれどアスファルトの上だともっと暑く感じるため、なぜか気になったので調べました。

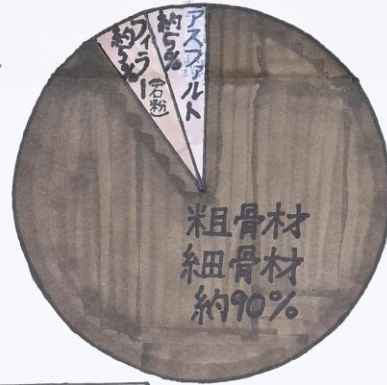
予想

アスファルトが一番熱くなると予想しました。

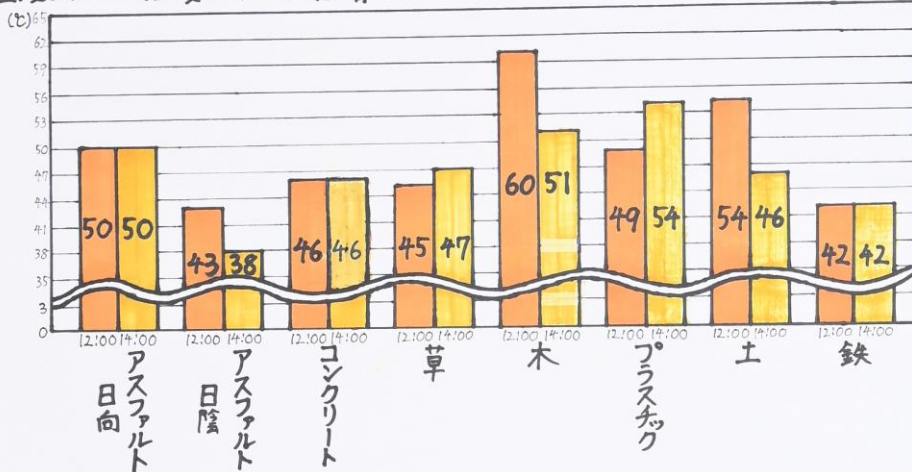
～アスファルトの配合～

ウィキペディア

このグラツの骨材というのが強度や耐久性を高めてくれる一方、熱を吸収・保持する性質も持っています。



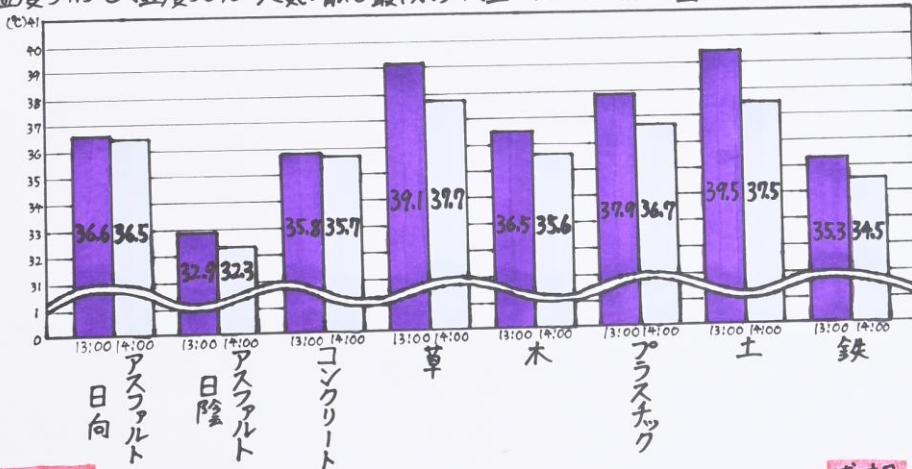
～いろいろな物の温度～ 温度34.5℃ 湿度50% 天気晴れ



12時も14時もアスファルトが一番熱くならなかった。アスファルトの日向と日陰では約10℃も違うと分かった。熱そうなアスファルトやコンクリート、鉄は2時間経ても温度が1℃も変わらなかった。日陰になるとアスファルトの温度が変わった。12時は木が一番熱く、14時はプラスチックが一番熱い。木や土は温度が変わりやすい。

～いろいろな物に置いた水の水温～

温度34.5℃ 湿度50% 天気晴れ 最初の水温27℃ 12:00から置いた



水温もアスファルトやコンクリート、鉄はあまり温度が変わらなかった。アスファルトの日陰は水温たあまり温度が変わらなかった。13時は土が一番熱く、14時は草が一番熱くなった。土は温度が変わりやすい。草やプラスチックは14時に温度が上がったのに水温は下がった。アスファルトの日向と日陰では約4℃違う。全て体温に近い温度になった。

まとめ

アスファルトは表面の温度が他に比べて熱いのではないです。しかし、熱く感じる理由は、熱を吸収・保持する骨材が入っているからです。上の調べた結果からもアスファルトが一番熱を吸収・保持することが分かりました。アスファルトの日向と日陰では表面の温度が約10℃も変わり、水温は約4℃も変わると分かりました。

感想

最初、アスファルトはとても熱い物だと思っていたけど、実は他の物に比べると熱い方なだけで、熱い原因は熱を蓄積することだと知ってびっくりしました。日向と日陰では温度が全然違うので暑い日には日陰に行くことがとても大切なのだと思いました。